

田の君臨シ

カザヤキハ

目金ハメ

ンンギン

リシロ

シマシ

マハハカ

シネマ

宮沢賢治先生の年譜(教職時代)

大正十年(1921年) 25歳
稗貫郡立稗貫農学校(のち県立花巻農学校)教諭となる。

代教・農産製造・作物・化学・英語・土壤・肥料・気象等、ほかに実習として水田稲作。十一月三日、養蚕室で赴任式があり、校長に紹介され「只今ご紹介いただいた宮澤です」といって礼をし、壇を下りた。丸坊主に洋服であった。十二月、花巻高女教諭(音楽)藤原嘉藤治を訪ねて意見投合し、レコードを聴き、音楽熱が高まった。

大正十一年(1922年) 26歳

稗貫郡立稗貫農学校教諭

一月、「精神歌」を書き、同僚堀筆文之進に見せ、誰か作曲できる人がいないか聞く。三月、「精神歌」の作曲を堀筆文之進は川村悟郎に依頼した。稗貫農学校第一回卒業式挙行。

大正十二年(1923年) 27歳

岩手県立花巻農学校教諭

四月、県立花巻農学校となる。新学期、校舎周辺の整地作業や根っこ掘りなどで始まり、農業実習は当分畑の石拾いや工事の後始末であった。全校生徒が2ヶ月間作業服で登校し、制服登校は6月からであった。

大正十三年(1924年) 28歳

岩手県立花巻農学校教諭

八月、「飢餓陣営」「植物医師」「ホランの広場」「種山ヶ原の夜」を農学校講堂で、風夜2回2日間一般公開し上演する。

大正十四年(1925年) 29歳

岩手県立花巻農学校教諭

六月、保坂嘉内に手紙を書く。「わたくしも教師をやめて本当の百姓になつて働きます。」

大正十五年(1926年) 30歳

三月三十一日 岩手県立花巻農学校を依願退職

四月、花巻川口町下根子の別荘で独居自炊の生活に入る。八月、羅須地人協会設立。

堀尾青史編「宮澤賢治年譜」から

写真：「愛農農場水田」
稲穂「陸羽132号」
陸羽132号は、賢治先生が農民のために勧めた品種です。



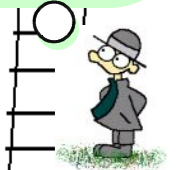


「宮沢賢治先生の家」紹介
 賢治先生は、本校で教鞭を執り、その精神は今でも生徒や職員的心中にいきづいている。私たちは、今でも「賢治先生」と呼びます。100周年記念事業で「賢治先生の像」を建立しました。今、賢治先生はより身近で私たちを見守っています。



賢治先生の家
 花巻農学校を退職後に花巻川口町下根子の別宅で独居自炊の生活に入り、羅須地人協会を設立する。
 現在、「賢治先生の家」として花巻農業高校の敷地内で管理する。

「賢治先生の家」の内部
 「賢治先生が今ここに・・・」という雰囲気があります。心が清められ、清々しい気持ちになります。



私は今
「下ノ畑ニ居リマス」
 どうぞ中に入って
 お休みください。
 鍵は、校舎の玄関にあります。
 どうぞ、自由に中をご覧ください。



地人会館（同窓会館）
 80周年記念事業として建設する。生徒の活動の場等として使用されている。前庭では、鹿踊部が活動しています。（賢治先生は、鹿踊りが好きだった。）



「旧校門」
 現花巻農業高校に移転した年に建立する。今まで、生徒を迎えていた旧校門は、今は「賢治先生の家を訪れる人々を迎えています。」

日時計花壇(賢治先生の設計図を再現)
 80周年記念事業として農業土木科の生徒が作製する。



「宮沢賢治先生の像」
 100周年記念事業として建立しました。
 制作者：橋本堅太郎氏(日本芸術院会員、日展理事長)
 「花巻農学校に帰ってきました。今、毎日生徒の笑顔に接しています。」



石碑「われらに要るものは・・・」の建立
 80周年記念事業として建立する。賢治先生の言葉には、大きな夢と愛情があります。子供達に大きな夢と希望を与えます。



「賢治先生の像」や「賢治先生の家」は、賢治先生を愛する人に見守られて大切にしています。営利目的での撮影はお断りします。「賢治先生の心」を察してください。